

清須市水道事業経営戦略

団 体 名 : 清 須 市

事 業 名 : 清 須 市 水 道 事 業

策 定 日 : 平 成 30 年 3 月

計 画 期 間 : 平 成 30 年 度 ~ 平 成 39 年 度

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 給 水

供 用 開 始 年 月 日	昭和44年5月1日	計 画 給 水 人 口	8,500 人
法 適 (全 部 ・ 財 務) ・ 非 適 の 区 分	法適用(全部)	現 在 給 水 人 口	7,898 人
		有 収 水 量 密 度	2.48 千 m^3 /ha

② 施 設

水 源	<input type="checkbox"/> 表流水 , <input type="checkbox"/> ダム , <input type="checkbox"/> 伏流水 , <input checked="" type="checkbox"/> 地下水 , <input checked="" type="checkbox"/> 受水 , <input type="checkbox"/> その他			
施 設 数	浄水場設置数	1	管 路 延 長	62.87 千m
	配水池設置数	2		
施 設 能 力	6,100 m^3 /日	施 設 利 用 率	45.48 %	

③ 料 金

料 金 体 系 の 概 要 ・ 考 え 方	清須市の上水道は、清須市が給水を行っている区域(旧春日地区)と名古屋市上下水道局より給水を受けている区域(旧春日地区以外の区域)があります。 住民負担の公平を図ることを目的に、名古屋市上下水道局の料金体系に統一しています。 水道料金は、用途、口径別の料金体系で、基本料金と従量料金からなっています。 基本料金は、水の使用量に関係なく、水道を使用する目的や給水管の口径に応じて料金を設定しています。業務目的での使用や口径が大きくなるほど高くなります。 従量料金は、水の使用量に応じていただく料金で、使用になればなるほど単価が高くなる通増方式となっています。		
料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まない)	平成22年9月1日		

④ 組 織

建設部上下水道課において、水道及び下水道の業務を、上下水道課長をはじめ、下水道管理係5名、下水道建設係6名、水道係2名、臨時職員1名の15名体制で行っております。 水道事業は、水道係2名、臨時職員1名の3名体制で行っております。

(2) これまでの主な経営健全化の取組

平成17年度から段階的に受水契約水量を実態に近い水量に低減し、受水料金の削減を図っています。 平成21年度の清須市と春日町の合併に伴い、上下水道課に組織を統合しました。

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

平成29年度に策定しました、平成28年度決算「経営比較分析表」を添付しています。 この経営比較分析表は、経営及び施設の状況を表す経営指標を活用し、本市の経年比較や他の類似団体との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することができます。
--

2. 将来の事業環境

(1) 給水人口の予測

清須市の人口は、昭和45年から平成27年までの45年間に7,575人増加し、おおむね増加基調で推移しております。今後、平成32年をピークとして、緩やかに減少していくと推計されます。清須市が給水を行っている春日地区においては、現在、区画整理事業を2箇所で開催しており、平成33年までは、増加傾向にあり、その後、ほぼ横ばいで推移していくと推測されます。

(2) 水需要の予測

給水人口の増加傾向にあわせて、平成33年までは、水需要の増加を見込んでおりますが、その後は、ほぼ横ばいで推移していくと推測されます。

(3) 料金収入の見通し

料金収入については、利用者の節水意識の高まり、節水型機器の普及などにより、水道の使用量は減少傾向にあるものの、給水人口の増加にあわせて、しばらくは横ばいで推移していくものと思われます。

(4) 施設の見通し

平成27年3月に策定した、清須市春日地区配水管路等耐震化計画に基づき、重要給水施設への配水管路の耐震化事業を実施しています。

(5) 組織の見通し

現状において、水道事業担当職員は、必要最低限の組織体制で運営を行っている状況であるため、現状の組織体制の見直し及び検証が必要です。また、水道事業経験者が減少しており、水道事業の安定的運営のために技能・技術などの経験の継承が必要です。

3. 経営の基本方針

水道事業の責務である「安全で安心な良質な水道水の安定供給」を実現するため、水道事業の基本である水道料金の取納と滞納整理を進めるとともに、経営の効率化や健全化に取り組み、経費削減に努めていきます。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	・安定した水道水の供給 ・投資の平準化
-----	------------------------

・清須市春日地区配水管路等耐震化計画に基づき重要給水施設への配水管路の耐震化
・老朽管の計画的な更新
・新規申込み、他工事の支障移設に伴う老朽管の更新

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	・経営の基本である水道料金の確保 ・資金不足にならないための財政計画の策定
-----	--

・水道料金の確保と滞納の整理に努める
・有収率の向上により財源を確保する
・県費補助金(国交付金)の有効活用

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

1. 営業費用
① 職員給与費
職員給与費は、平成30年度予算と同額を計上しました。
② 経費
ア 動力費
平成30年度予算に、最近の決算状況を反映させるため、平成28年度決算値、平成29年度決算見込み値及び平成30年度予算の平均値で計上しました。
イ 修繕費
平成30年度予算に、最近の決算状況を反映させるため、平成28年度決算値、平成29年度決算見込み値及び平成30年度予算の平均値で計上しました。
ウ 受水費
平成30年度予算に、最近の決算状況を反映させるため、平成28年度決算値、平成29年度決算見込み値及び平成30年度予算の平均値で計上しました。
エ その他
備消耗品費、光熱水費、委託料、薬品費、賃借料等は、平成30年度予算と同額を計上しました。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 投資について検討状況等

民間の資金・ノウハウ等の活用 (PFI・DBOの導入等)	策定時点において記述事項はありません。
施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング)	策定時点において記述事項はありません。
施設・設備の合理化 (スペックダウン)	策定時点において記述事項はありません。
施設・設備の長寿命化等の 投資の平準化	策定時点において記述事項はありません。
広域化	清須市の水道の一元化を図るため、水道事業の統廃合に向け、関係機関と協議を行っています。
その他の取組	策定時点において記述事項はありません。

② 財源について検討状況等

料 金	策定時点において記述事項はありません。
企 業 債	平成8年以降、企業債の借り入れを行っておらず、順調に償還ができています。
繰 入 金	策定時点において記述事項はありません。
資産の有効活用等(*2)による 収入増加の取組	策定時点において記述事項はありません。
その他の取組	策定時点において記述事項はありません。

*2 遊休資産の売却や貸付、債券運用の導入、小水力発電や太陽光発電など

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委 託 料	策定時点において記述事項はありません。
修 繕 費	策定時点において記述事項はありません。
動 力 費	策定時点において記述事項はありません。
職 員 給 与 費	策定時点において記述事項はありません。
その他の取組	策定時点において記述事項はありません。

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、 更新等に関する事項	毎年度、進捗管理を行うとともに、最低でも中間年に見直しを行い、PDCAサイクルを効果的に実施し、本経営戦略の事後検証、更新等を行うものです。
-------------------------	--

経営比較分析表（平成28年度決算）

愛知県 清須市

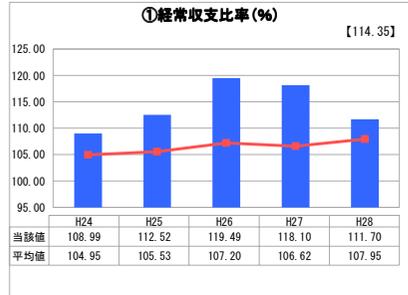
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	76.60	99.84	2,381	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
67,538	17.35	3,892.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,898	4.01	1,969.58

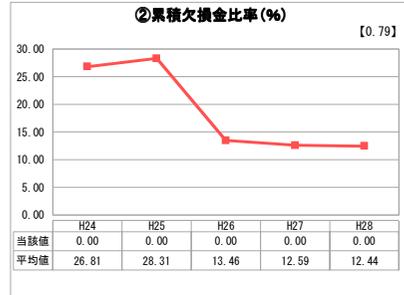
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

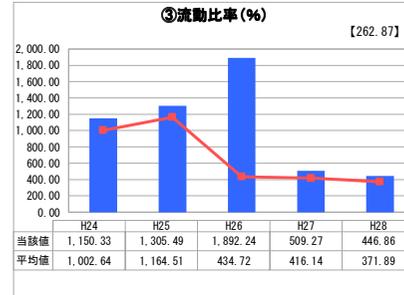
1. 経営の健全性・効率性



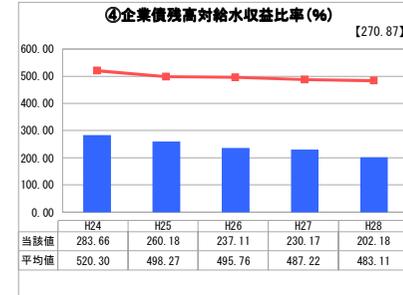
「経常損益」



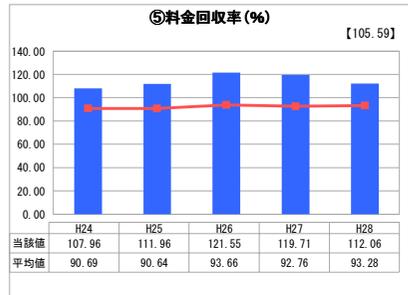
「累積欠損」



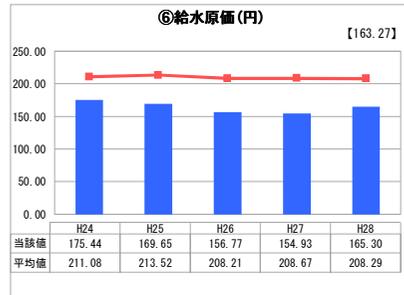
「支払能力」



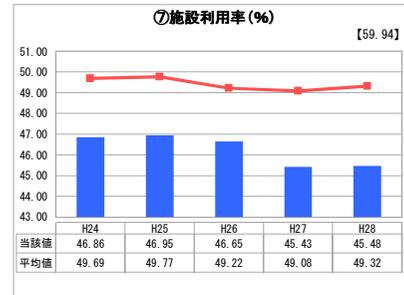
「債務残高」



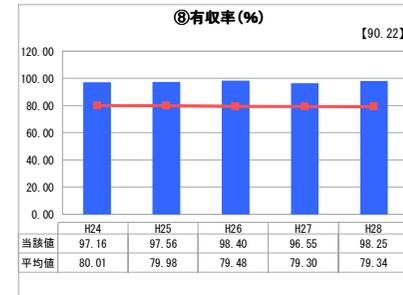
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

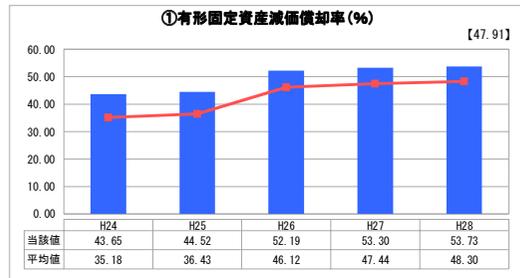


「施設の効率性」

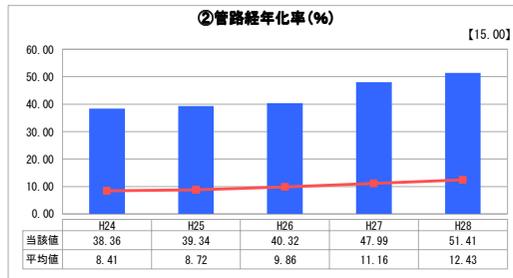


「供給した配水量の効率性」

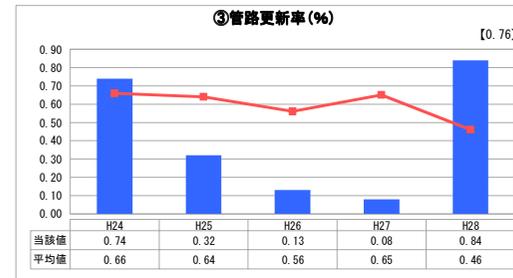
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全化を示す①「経常収支比率」については、単年度の収支が常に100%を超える黒字経営を継続している。
 営業活動により生じた赤字を示す②「累積欠損比率」についても0%で推移し、安定的な経営を継続している。
 1年以内に支払う債務に対する現金の保有率を示す③「流動比率」についても類似団体及び全国平均値を上回る比率を有している。
 企業債の残高を示す④「企業債残高対給水収益比率」については、平成8年以降、企業債の借入れを行っておらず、順調に償還ができています。
 給水に係る経費が、給水収益で賄えているかを示す⑤「料金回収率」については、経費の全てを収益で賄えており適切な料金水準と言える。
 有収水量1㎡あたりの経費の占める割合を示す⑥「給水原価」については、投資の効率化や維持管理の適正化等、経営努力により、類似団体及び全国平均値を下回る給水原価を維持できています。
 施設の利用状況や適正規模を判断する⑦「施設利用率」については、元々の配水能力が高い施設であり、給水区域内の人口変動や季節利用量によっても大きく左右されるが、給水区域内に配水施設が1箇所しか無く、類似団体及び全国平均値を下回る利用率であるため、今後、施設規模について検討していく必要があると考えます。
 また、この結果は、⑧「有収率」にも示されており、供給した水は100%に限りなく近い有収率で収益（水道料金）として回収できていると言える。

2. 老朽化の状況について

グラフが示すとおり、所有資産の老朽化が深刻であり、①「有形固定資産減価償却率」②「管路経年率」とも類似団体及び全国平均値より悪い状況である。
 これらは、経営の安定を優先的に考え、投資を極力抑えた結果によるものである。
 ③「管路更新率」については、平成28年度より「清須市春日地区配水管路等耐震化計画」に基づき、愛知県生活衛生課所管の生活基盤施設耐震化等補助金を活用した配水管路網の耐震化事業に着手しており、これらの進捗を反映して改善されている。

全体総括

単年度の収支は黒字を継続しており、経営自体は、「健全で無駄の無い経営」となっているが、投資とのバランスを大きく欠き、保有資産の老朽化が深刻な状況となっているため、今後、更新事業等の投資的支出が増大していくと考える。
 更新事業の増加は、経営の健全性・効率性に与える収益動向に与える影響も少なくなく、経営は次第に悪化していくと予想されることから、経営戦略を策定（平成30年）し、新たな企業債の借入、一般会計からの繰入、近隣事業体との事業統合、広域化の推進を視野に入れた経営の健全化を進めていく必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

